

3. 調査結果報告

3-3. トイレの利用状況（オフィス・公共施設）

おことわり

トイレ関連調査において、2017年と2022年では、トランスジェンダーの回答サンプルの特性が異なります。そのため、トランスジェンダーの回答結果や傾向に違いがあります。

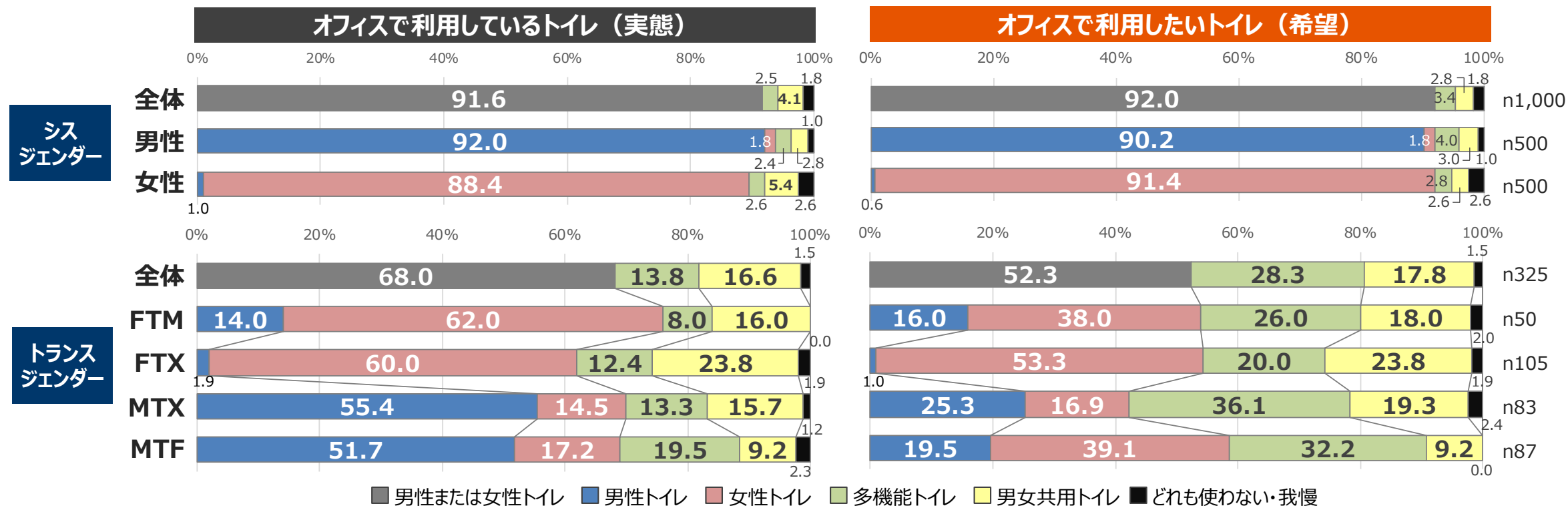
＊2017年調査：調査会社に登録しているモニター回答者（167人）に、LGBTQ+ 関連団体の協力を得て収集した回答者（132人）を加え、計299人の結果を集計。

＊2022年調査：調査会社に登録しているモニター回答者（325人）のみで集計。

「オフィス」で利用しているトイレ（実態）と利用したいトイレ（希望）の種類

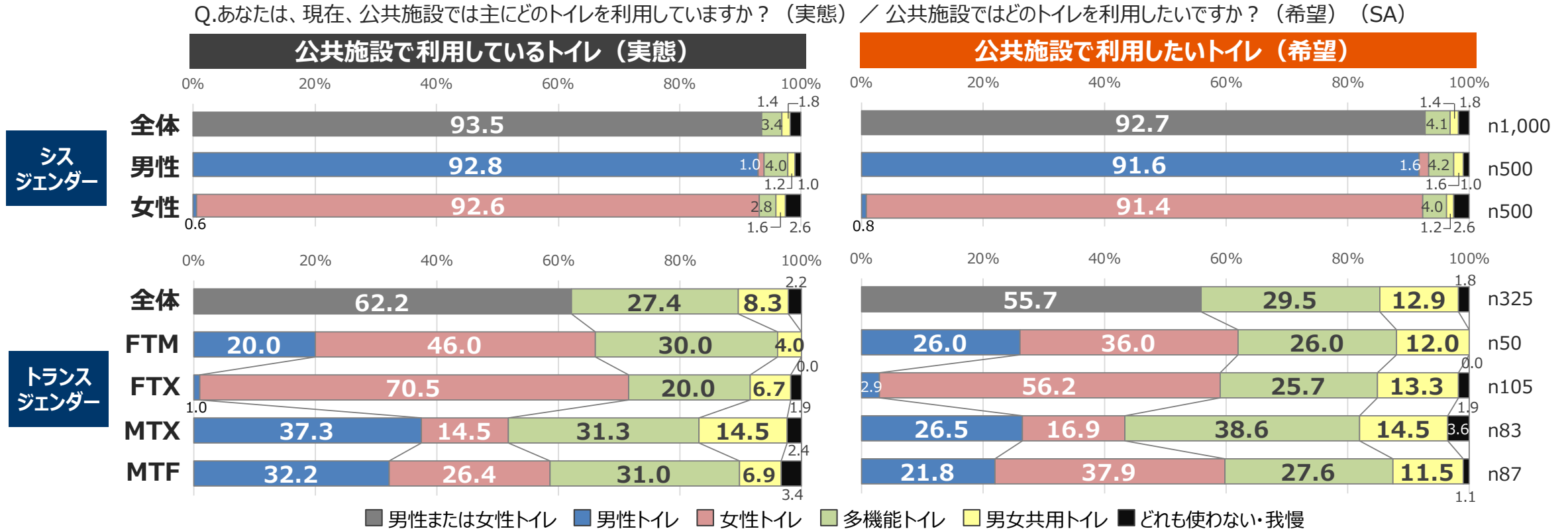
- シスでは、実態・希望共に男性は「男性トイレ」、女性は「女性トイレ」が約9割を占めるが、トランスはさまざまである。
- トランスの実態では、「出生時戸籍が女性」のFTM、FTXでは「女性トイレ」、「出生時戸籍が男性」のMTX、MTFでは「男性トイレ」が最も多く、オフィスでは「出生時の戸籍性別のトイレ」を利用せざるを得ない傾向が示唆される。
- トランス全体では、実態・希望共に「男女別トイレ」が最も多いが、「実態」では7割弱であるのに対し、「希望」では約半数となる。その分、「多機能トイレ」を希望する人の割合が高くなり、全体では約3割を占めた。

Q.あなたは、現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）／ 職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



「公共施設」で利用しているトイレ（実態）と利用したいトイレ（希望）の種類

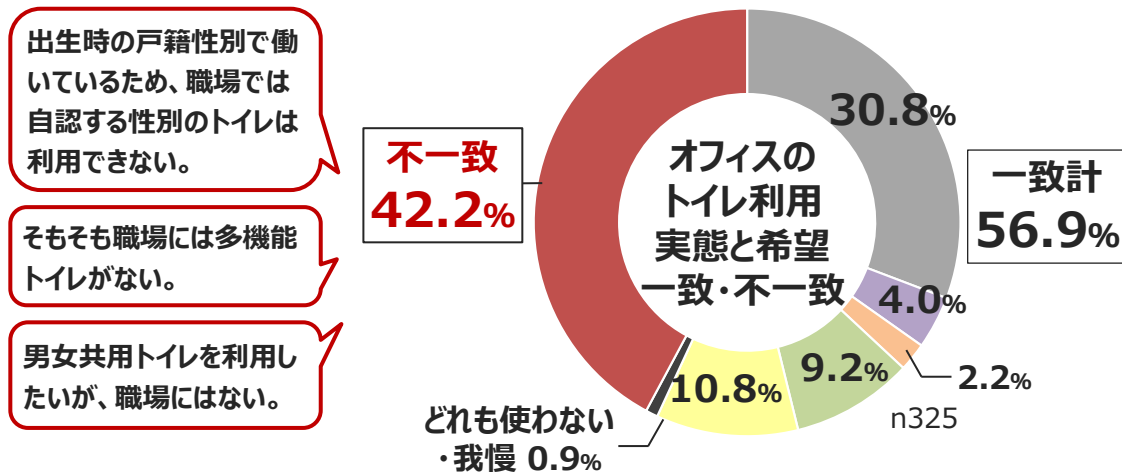
- シス・トランス共に、実態・希望の全体的な傾向はオフィスと同様だが、トランスでは「出生時の戸籍性別のトイレ」を利用している人の割合はオフィスより低く、「自認する性別のトイレ（FTMの男性トイレ、MTFの女性トイレ）」の割合がやや高い。
- 「多機能トイレ」を利用している人は、オフィスの13.8%に対し27.4%で13.6ポイント高い。一方、「男女共用トイレ」を利用している人は、オフィス16.6%に対し、8.3%で半減する。
- トランス回答者のオフィスには小規模なものも含まれ、「多機能トイレ」が設置されていない、あるいは「男女共用トイレ」しかない状況が考えられる。また、公共施設では、現状「多機能トイレ」以外の男女共用トイレは少ないことが影響していると推察される。



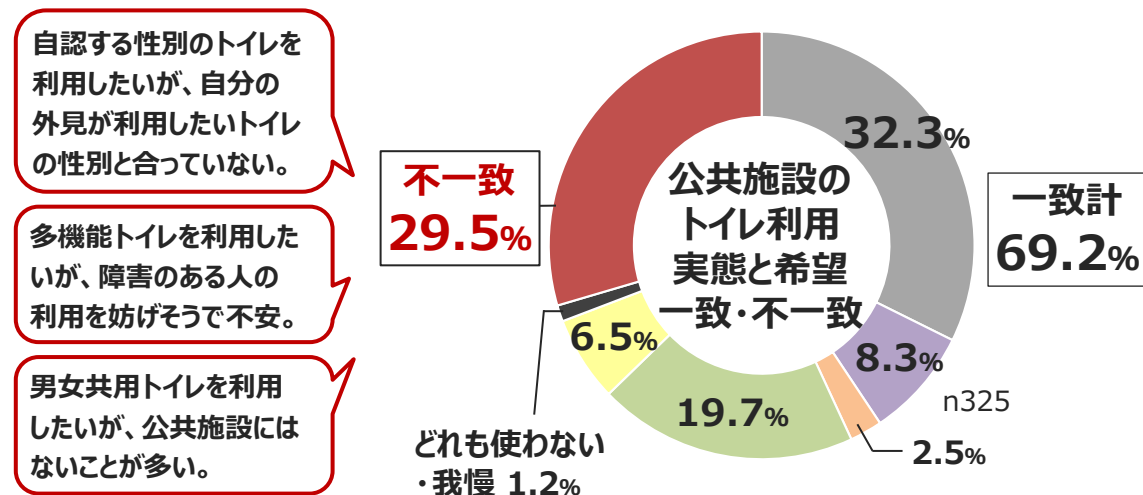
トイレ利用の実態と希望の一致・不一致状況：オフィス・公共施設（トランスジェンダー全体）

- トランスジェンダー回答者全体のうち、オフィスでは4割以上、公共施設では約3割が利用したいトイレを利用できておらず、その差は12.7ポイントであった。この傾向は、職場での性別とプライベートでの性別の不一致状況と同じ傾向である（p.28参照）。
- 希望するトイレはジェンダーにより異なり、実態と一致する場合でもさまざまなケースがある。オフィスよりも公共施設の方が「自認性別のトイレ」で一致している人は4.3ポイント、「多機能トイレ」で一致している人は10.5ポイント高い。一方、「男女共用トイレ」で一致している人は公共施設の方が4.3ポイント低い。
- 「不一致」の理由（自由回答）には、多機能トイレや男女共用トイレが設置されていないことによるものもみられた。

Q.あなたは、現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）
職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



Q.あなたは、現在、公共施設では主にどのトイレを利用していますか？（実態）
公共施設ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



【一致内訳】

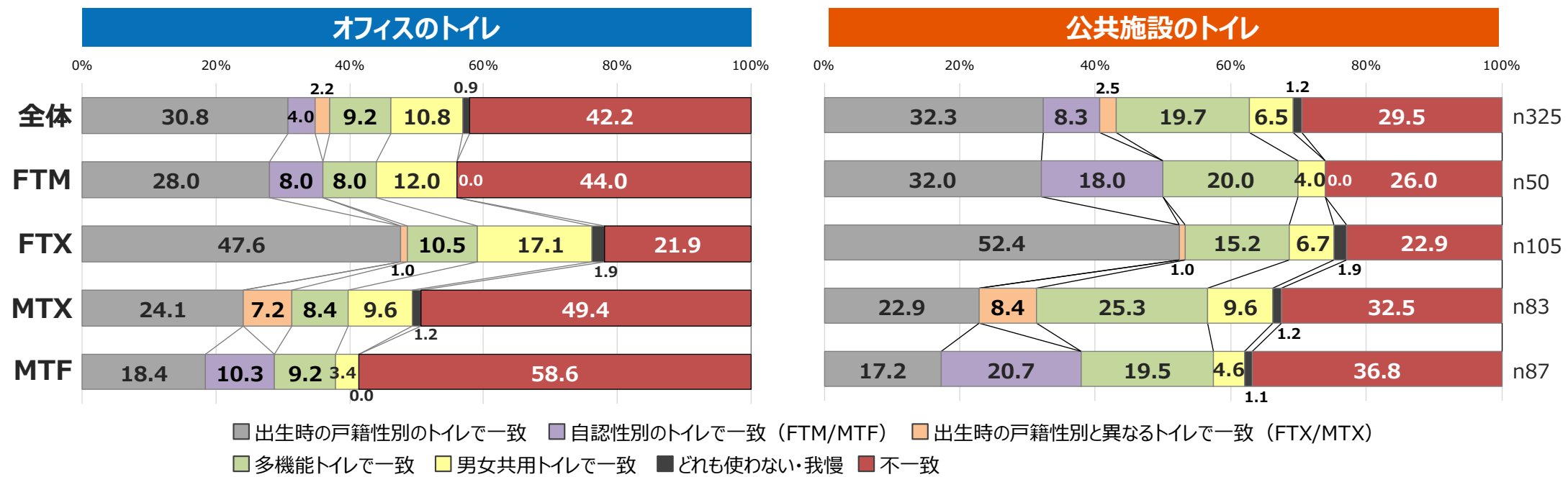
■ 出生時の戸籍性別のトイレで一致 ■ 自認性別のトイレで一致 (FTM/MTF) ■ 出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致 (FTX/MTX) ■ 多機能トイレで一致 ■ 男女共用トイレで一致

トイレ利用の実態と希望の一致凡例について
※詳細はp.31参照

- ・出生時戸籍性別のトイレで一致：FTM・FTXでは女性用トイレ、MTX・MTFでは男性用トイレで一致している場合。
- ・自認する性別のトイレで一致：FTMでは男性用トイレ、MTFでは女性用トイレで一致している場合（Xジェンダー用トイレはないため、FTX・MTXの場合は「性自認で一致」はない）。
- ・出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致：FTXでは男性用トイレ、MTXでは女性用トイレで一致している場合。

トイレ利用の実態と希望の一致・不一致状況：オフィスと公共施設の比較（トランスジェンダー4区分）

- 一致しているトイレの種類はオフィス、公共施設共にさまざま、ジェンダー区分によっても異なる。
- 「自認する性別のトイレ」で一致する人は、オフィスより公共施設の方が多く、FTMではオフィス8.0%に対し、公共施設は18.0%、MTFではオフィス10.3%に対し、公共施設は20.7%。
- 不一致率は、FTXを除き、公共施設よりもオフィスの方が高い。また、「出生時の戸籍性別が男性」のトランスジェンダー（MTX、MTF）の方が、「同女性」のトランスジェンダー（FTM、FTX）より不一致率が高い傾向にあり、特にMTFはオフィスでは約6割、公共施設では約4割にのぼる。



【トイレ利用の実態と希望の一致凡例について】※詳細はp.37参照

- ・出生時戸籍性別のトイレで一致：FTM・FTXでは女性用トイレ、MTX・MTFでは男性用トイレで一致している場合。
- ・自認する性別のトイレで一致：FTMでは男性用トイレ、MTFでは女性用トイレで一致している場合（Xジェンダー用トイレはないため、FTX・MTXの場合は「性自認で一致」はない）。
- ・出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致：FTXでは男性用トイレ、MTXでは女性用トイレで一致している場合。

補足：トイレ利用の“実態”と“希望”の「一致状況」凡例について

「オフィス」、「公共施設」のトイレ利用における“実態”と“希望”の「一致状況」について、凡例の説明を以下に示す。

➤ 下記 “実態”と“希望”の各設問に対する回答の一致状況により、分類を行った。

	設文内容	選択肢（単一回答）
実態	あなたは現在、職場では（公共施設では）主にどのトイレを 利用 していますか？	男性トイレ / 女性トイレ / 多機能トイレ / 男女共用トイレ / どれも使わない・我慢する
希望	あなたは、職場では（公共施設では）どのトイレを 利用 したいですか？	

一致の内容	実態と希望の回答状況
出生時の戸籍性別のトイレで一致	FTM・FTXでは「女性トイレ」、MTX・MTFでは「男性トイレ」で一致している人
自認性別のトイレで一致 （FTM、MTFのみ）	FTMでは「男性トイレ」、MTFでは「女性トイレ」で一致している人。 「Xジェンダー用トイレ」はないため、FTX、MTXでは「自認性別のトイレで一致」はない。
出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致 （FTX、MTXのみ）	FTXでは「男性トイレ」、MTXでは「女性トイレ」で一致している人。
多機能トイレで一致	「多機能トイレ」で一致している人
男女共用トイレで一致	「男女共用トイレ」で一致している人
どれも使わない・我慢	実態、希望共に「どれも使わない・我慢する」と回答した人
不一致	実態と希望の回答が一致しない人、実態と希望のいずれかにて「どれも使わない・我慢する」と回答した人